

第 14 回薩摩川内市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	平成 30 年 7 月 24 日(火) 13:30～16:00	
開催場所	薩摩川内市役所 6 階 601 会議室	
出席者	委員	外菌会長、田島委員、宮元委員、石原委員、小平委員
	事務局	行政改革推進課長、同課職員
	傍聴者	なし

□ 会次第

開会	主管課・室
1 開会	
2 補助金等評価	
(1) 不妊治療費等助成金	市民健康課
(2) 不育治療費等助成金	市民健康課
(3) 社会福祉協議会運営補助金	障害・社会福祉課
(4) 更生保護女性会運営補助金	障害・社会福祉課
(5) 総合福祉会館維持管理補助金	障害・社会福祉課
(6) 薩摩保護区保護司会運営補助金	障害・社会福祉課
(7) 認可外保育施設運営補助金	子育て支援課
(8) 森のめぐみの産地づくり事業補助金	林務水産課
(9) 甕島水産物産地消促進事業補助金	林務水産課
3 閉会	

□ 議事

1 開会

○ 会長

(挨拶)

2 補助金等評価

(1) 不妊治療費等助成金(書類審査)

(質疑・協議)

○委員 補助対象経費の中の入院費はどういうものが対象となるのか。

●事務局 入院費のうち部屋代・食事代などの直接治療に関係のない費用を除き、対象となっている。内容については、申請され

る方に、診療費が分かる領収書を全て提出いただき、市で対象経費を計算・確認作業を実施している。

○委員 助成の対象となるものはどのようなものか。

●事務局 対象となる治療については、体外受精、顕微授精、凍結胚移植、採卵したが卵が得られない等のため中止したもの、人工授精、タイミング療法、排卵誘発法の 7 つの治療法である。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

2 補助金等評価

(2) 不育治療費等助成金(書類審査)

(質疑・協議)

○**委員** 不妊治療との違いは何か。

●**事務局** 例えば、流産となり不育症と診断され、染色体検査を実施した経費等が対象となるものである。

○**委員** 不妊・不育治療ともに治療に要する経費を一部助成するものと理解した。

●**事務局** 補助金等評価は要綱ごとに審査を実施している。似た内容であるが、別々に審査することに理解いただきたい。

○**委員** どれくらいの件数を見込んでいるのか。

●**事務局** 30万円予算措置している。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

2 補助金等評価

(3) 社会福祉協議会運営補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○**委員** 社会福祉協議会が実施している事

業は、県内どの地域も同じか。

●**主管課** 自主事業や市の受託事業は地域によって異なっている。県内の他の社会福祉協議会と比較すると事業を多く取り組んでいると評価している。

○**会長** 3年前の評価は、「見直しの上で継続：縮小」という評価であったとのことである。委員からの指摘事項は何があったか。

●**事務局** 指摘事項は、委託事業として移せるものは委託事業に移し、支払うなど、事業等の切り分けをされたい。独立採算制的なものを導入されたい。基金の状況について明記されたい。当初予算等の事業計画書を示されたい。繰越金、事業内容、効果の測定を精査されたい。本活動主体は、国、地方自治体の財政状況を把握、認識し、補助金なしで組織としてできる範囲で事業を行えるよう、指導されたい。以上の6項目ある。

○**会長** 指摘事項に対して、具体的にどのような対策を実施したか。

●**主管課** 社会福祉協議会の自主財源には、会費、香典返し、寄附金しかない。自主財源確保への取組として、会費値上げを提案しているところであるが、事業・サービスによっては経常的に赤字となっているものもあり、厳しい状況にある。

○**委員** 年々補助金が増額している理由は何か。また、補助金が余った場合は、精算しているのか。

●**主管課** 補助金が増額した理由については、平成28年度は権利擁護センター、地域づくり事業、地域包括支援センターの共通経費が増額した。平成29年度は地域づくり事業の人件費分及び甌島の介護サービス事業の赤字補てん分が増額した。また、精算についての質問は、市からの補助金に自主財源を継ぎ足して収入と支出が同額となっており、補助金全額を使い切っている状況にある。

○**委員** 社会福祉協議会の職員数は何名か。

- 主管課** 306名である。
- 委員** この補助金の中に計上されているのか。
- 主管課** 職員15名、嘱託職員13名の計28名の人件費のみが計上されている。
- 会長** 社会福祉協議会が担っている業務は非常に素晴らしいものである。しかしながら、運営費補助金が増額した部分等を書面で示してほしい。特に、人件費の部分が大きく占めているので、その説明をしっかりとしていきたい。
- 委員** 要望事項である。資料7ページの社会福祉協議会補助金精算書に収入の記載がない。補助金を評価する上で、次回は、社会福祉協議会全体の事業内容が把握できるよう、自主事業や市の委託事業を整理して、示すべきではないか。
- 主管課** 社会福祉協議会の会計は複雑で、既存の資料だけでは分かりづらい所もあったかと思う。次回の評価では、委員に少しでも分かりやすい資料を提供できるよう検討したい。
- 委員** 生活保護を受給されている方の支援・審査などは社会福祉協議会が行っているのか。
- 主管課** 社会福祉協議会ではなく、市役所保護課で行っている。社会福祉協議会では、生活保護を受給される前の方たちを何とか自立更生させようとする生活困窮者支援事業を実施している。
- 会長** 資料2ページの下段に、平成30年度から新たなルールに基づき交付すると記載がある。今後の方向性としてはどう考えているのか。
- 主管課** 社会福祉協議会が自ら頑張ろうとしている部分を支援する仕組みに変更した。社会福祉協議会次第ではあるが、市の補助金は増加傾向になると考えている。
- 委員** 社会福祉協議会が実施しているボランティア活動事業について、別添配布資料に市内21校の小・中学校を指定して助

成していると記載がある。平成30年度の見込みは。

- 主管課** 平成30年度からはすべての小・中学校をボランティア協力校として指定した。
- 委員** 自主財源の確保について話し合いは行われたのか。また、資料8ページの委託料の関係で、委託先の選定方法について、確認したい。
- 事務局** 自主財源の確保策については、社会福祉協議会へ会費増を提案し、話し合いを行ったが、会員離れにつながることを懸念された上で、見送られている。また、委託先の選定方法については、見積書を徴収したうえで、一番安価なところと契約していると確認している。

(まとめ)

- 会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 会長** 社会福祉協議会の会計は複雑で、既存の資料だけでは分かりづらく、口頭説明では協議がしにくい。
- 委員** 前回評価における指摘事項の6項目において、改善されていない点を事務局が精査し、今回の評価としても引き続き、指摘・指導するよう検討してほしい。
- 委員** 異議なし
- 会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(4) 更生保護女性会運営補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

- 委員** 補助対象の団体の二つは、どこの地域にあるのか。

- 主管課** 旧川内地域と旧入来地域で、他の地域にはなかった。
- 委員** 婦人会の中で、対応している地域が多いのではないかな。
- 委員** 会員数は川内更生保護女性会が117名、入来更生保護女性会が50名で、補助金は同額か。
- 主管課** お見込みのとおりである。定額の5万円である。
- 委員** これまで両団体の合併の話はあったのか。また、市から相談したことはあるのか。
- 主管課** 合併の話はこれまでない。これまでの地域を範囲に活動が続けている。「社会を明るくする運動」という強調月間など、両団体が協力して行っている事業もある。
- 主管課** 県内では、薩摩川内市の犯罪率は他の市町村と比べると低く、対象者も人口規模の割には非常に少ない状況であると聞いている。更生保護女性会と薩摩保護区保護司会の活動が大きく寄与していると考えている。

(まとめ)

- 会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 会長** 旧川内地域と旧入来地域にのみある団体である。これまでの経緯を確認した結果、統合は難しいと感じた。指摘しなくてもよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 委員** 薩摩川内市の犯罪率は低い方であると主管課からの説明があった。補助金交付要領を見直すなど、犯罪率を成果指標に

設定し、効果の測定をするよう要望したい。

- 委員** 団体の活動が犯罪率にも寄与していると評価したい。
- 会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(5) 総合福祉会館維持管理補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

- 委員** 総合福祉会館維持管理のための事務費に人件費は計上されているのか。
- 主管課** 維持管理のための非常勤職員2名分の賃金を計上している。
- 委員** 平成29年度に事業収入が増えた理由は何か。
- 主管課** エレベーター設置事業のため、約2,600万円決算額が増加している。うち2,200万円は市の補助金で、残りの400万円は自主財源で賄った。
- 会長** 3年前の委員からの指摘事項は何かあったか。
- 事務局** 指摘事項は、太陽光発電など、タイムリーな情報収集により、自主財源の確保に努められたい。社会福祉協議会に運営補助金を交付しているので、本補助金との1本化を検討されたい。施設及び維持管理費用のあり方を検討されたい。以上の3項目ある。
- 会長** 指摘事項に対して、具体的にどのような対策を実施したか。
- 主管課** 維持管理に関する光熱水費などは必要最小限でお願いしている。
- 委員** 総合福祉会館の利用件数の推移を確認したい。
- 事務局** 利用者数は平成27年度が約2万4千人、平成28年度が約2万8千人、平成29年度が約3万人弱である。

(まとめ)

- 会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○委員 総合福祉会館は拠点施設である。電気・ガス・水道料金など経常的を節約するなど今後とも適切に維持・管理するよう依頼したい。

○会長 まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(6) 薩摩保護区保護司会運営補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 犯罪防止及び犯罪を犯した方の自立更生のため、大変な仕事である。

○委員 保護司会に対して何らかの手当てはなされているのか。

●主管課 保護司会に対する実費弁償金約150万円が収入として計上されており、活動に応じて活動費が支給されている。昨今、別添の事業・会務報告のとおり、薩摩保護区の活動はとても活発になっている。

○委員 保護司本人に対しての手当てはいくらぐらいか。

●主管課 保護司の人数で割ると一人当たり約1万4千円支給されている計算となる。基本的には、ボランティア活動と同じであると考えている。

○委員 薩摩川内市内の対象者は少ないと聞いている。

○委員 対象者・人数は把握しているのか。

●主管課 県内では、薩摩川内市の対象者は他の市町村と比べると本当に少ない。対象者の人数は申し上げることができない。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○委員 更生保護女性会運営補助金と同様の指摘事項を記載してよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(7) 認可外保育施設運営補助金(書類審査)

(質疑・協議)

○会長 市内に認可外保育所はどれくらいあるのか。

●事務局 認可外保育施設が市内に6カ所ある。一時預かり等で利用している市民もいる。

○委員 6カ所のうち補助金を利用している施設は3カ所のみか。

●事務局 お見込みのとおりである。

○会長 なくてはならない施設であると思う。

●事務局 認可保育所と同様に保育できる環境を整備するため施設整備、職員研修に要する経費や育児教材費、衛生管理費に要する経費が補助の対象となっている。

○会長 成果指標の推移について、事務局としてはどのように考えているか。

●事務局 利用定員に対する利用者実人数の割合が75%の目標値に対して、実績は45%となっている。また、月平均受託児童数も目標値に対して、下回っている。しかしながら、認可保育所を補うため、必要な施設である。子育てしやすい町づくりを目指すためには、重要な制度である。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

2 補助金等評価

(8) 森のめぐみの産地づくり事業補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 薩摩川内市に早掘りたけのこを取り扱っている事業者はいるのか。

●主管課 薩摩川内市たけのこ生産組合が取り扱っている。組合員数は104名いる。

○委員 さつま町（宮之城）のたけのこはとも有名。本市の取組は見えない。

●主管課 鹿児島県と北薩地域の市町（薩摩川内市、さつま町、出水市、阿久根市）が一体となって取り組んでいる。

○委員 成果は上がっているのか。

●主管課 3カ年の決算状況をご覧いただきたい。平成27年度に台風15号による竹林等の被害によって、生産量・生産額に大きな影響があった。現在は、まだ生産体制を立て直している段階にある。土壌改良に伴う肥料等の資材購入額の経費を補助するなど、従来の補助制度を改善・拡充することで、たけのこ生産の向上を図っている。

○委員 薩摩川内市のたけのこは市場に出回っているのか。

●主管課 北さつま農協がさつま町と一緒に関東方面（築地市場等）に出荷している。

●主管課 委員ご指摘のとおり、さつま町の方が認知度は高い状況にある。市としても、勉強会の開催、出荷体制等を工夫するなど一生懸命取り組んでいる。

○委員 北さつま農協にたけのこ専門の職員はいるのか。

○委員 さつま町にある北さつま農協本所に在籍している。依頼があれば、薩摩川内市にも来ているはずである。

○委員 農協がもっと農業指導すべき。後継

者がいない農家が増えてきており、荒れ地が多くなってきていると感じる。

●主管課 ご意見として承りたい。農協、生産組合、鹿児島県など関係機関と連携し、取り組んでいきたい。

○委員 5年しかたけのこは育たないと聞く。たけのこを生産した後の竹林は放置されないか。

●主管課 伐竹材の運搬に係る補助制度を設けている。軽トラ1台分で3,850円、1トン約7千円となる計算である。高齢者中心であるが、活用されていると考えている。

○委員 成果指標の推移にある生産量・額は市全体の数値か。それとも市のたけのこ生産組合に加入者の数値か。

●主管課 市全体の数値である。

○委員 さつま町と比較するとどうか。

●主管課 さつま町の方が生産量・額ともに多い状況にある。

○委員 関東方面では、同じものとして出荷されているのか。金額も同じと理解してよいのか。

●主管課 お見込みのとおりである。

○委員 生産量を400トンにするための方策を示してほしい。

●主管課 たけのこ生産量を増やすには、たけのこ生産林、すなわち山が一番大切である。自力回復・増進を図るため土壌改良・改善に力を入れていきたい。

●主管課 たけのこ生産組合の組合員数は平成27年度の98名から現在は104名と、増加傾向にある。鹿児島県と連携し、生産講習会を開催するなど、後継者育成にも積極的に取り組んでいきたい。

○委員 地域おこし協力隊に係る事業として人材確保できないか。また、行政と農協がタイアップするなど、生産農家を増やす努力をもっと積極的に行ってほしい。これらを総合的に行うことで、地域が活性化するのではないか。

○**会長** 竹バイオマス産業都市構想などで、今後竹林はどのようになると見込んでいるのか。

●**主管課** 次世代エネルギー課が所管ではあるが、放置竹林の整備などは、前年度の倍ぐらいと聞いている。伐材の搬出のための対象者の拡大と単価引き上げ（2.3円→3.3円）など、補助内容の拡充が要因と考える。

○**委員** 住民は制度自体知らない。周知が不足しているのでは。

●**事務局** 10月開催予定の次世代エネルギー課に対象の補助金ではある。

（まとめ）

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**委員** 薩摩川内市産たけのこに対する広報が不足している。イベント等でも呼び掛けるなど工夫されたい。

○**委員** 主管課から説明があった、たけのこ生産林の育成と後継者育成を両面から進め、市全体に波及するよう工夫をお願いしたい。

○**委員** 樋脇地域ではたけのこ部会で勉強会等を実施していると聞いている。生産組合員の地道な活動をこれからも期待したい。

○**会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(9) 甕島水産物地産地消促進事業補助金

（主管課説明後、質疑・協議）

○**委員** 事業の必要性から制度は今後も継続してほしい。

●**主管課** 「川内とれたて市」を拠点に、販路拡大を目指している事業である。今後も川内漁協と甕島漁協の両漁協と連携し、甕島産水産物の地産地消と消費拡大を図っていききたい。

○**委員** ここからは要望である。甕島漁協と川内漁協の合併を市からも促してほしい。川内港の活性化のため、また、地域の住民からの要望も含め、市全体で考えるためにも一本化すべきと考える。

●**主管課** 県全体の漁協が合併するのではとの情報を聞いている。市から合併の話を持っていくことはできないが、両漁協との話し合いを今後も進めていきたい。

○**委員** 「川内とれたて市」に品物があまり置いていない。市内に魚市場がないことが要因ではないか。

○**委員** 成果指標の目標値に対し、平成28年度は少ない状況にある。理由は何か。

●**主管課** 平成28年11月から始まった事業である。平成28年度は5カ月分。平成29年度からは年間分を輸送している。

○**委員** 事業の成果が見られ、事業の必要性も感じる事業である。実際に輸送している会社はどこか。

●**主管課** 甕島漁協が九州海運株式会社に委託して実施している。

（まとめ）

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**委員** 新鮮、安価な甕島産の水産物を市内に流通させるための事業。以前と比べると増えているものの、まだまだ甕島産の水産

物が市場に出回っているとは言い難い状況にある。更なる地産地消と消費拡大を図っていくことを期待したい。

○会長 まとめに記載したい。

3 閉会

○事務局

(挨拶)